

看護の現場で必要とされる 言語についての調査と分析

井 上 真 紀
佐 藤 利 哉
片 岡 由美子
原 大 介
神 田 和 幸

概 要

看護現場ではさまざまなコミュニケーションが行われているが充分とはいえない。病院の看護師に英語と手話の必要性についてアンケートを実施し、現場のニーズを調査した結果を報告する。調査結果を元に看護英語の内容について考察し看護における言語教育のあり方を検討する。

1. ユニバーサル・コミュニケーション

本研究はユニバーサル・コミュニケーション研究会（以下UC研と略称）の研究成果の一部である。老人・障害者などでも機器が不自由なく使用できるようにデザインする研究をユニバーサル・デザインという。コミュニケーションにおいても不自由なくお互いのコミュニケーションが可能になるような研究を私たちはユニバーサル・コミュニケーションと命名し、研究会を設立して研究活動を重ねてきた。コミュニケーション研究というと

一般に言語研究が想起されているが、UC研は言語研究のみに限定せず、工学、心理学、社会学などコミュニケーションに関わるすべての領域を研究対象と考えている。

2. 看護現場のコミュニケーション

コミュニケーションの場は人間の活動範囲すべてに及ぶ。たまたまUC研メンバーの多くが看護英語教育に携わっているため、まず自分たちの教育現場である看護英語教育をテーマとした。看護英語は特殊であり教科書も少なく、これまであまり研究されてこなかった。そこで①看護現場における英語の必要性とその内容の調査、②看護英語教育教科書の内容調査を研究し、看護教育のあり方と新しい教科書作りの研究に着手した。

UC研メンバーには手話研究者もいるため、英語だけでなく手話も併せて調査対象とした。看護現場では英語や手話だけでなく、あらゆる外国語のコミュニケーションが関与しているが、それについては調査項目に加えるだけにした。

3. 看護現場で必要とされる言語についての調査

3.1 研究目的

近年、日本の社会において就労者や留学生を含む外国人が増加しており、それに伴い、看護現場で働く人々がコミュニケーションの手段として様々な言語を使う必要が増していると思われる。看護現場で実際にどの言語が必要なのか、その言語を使う必要があったのはどのような場合なのか、また、どのような言語表現が現場で役に立つのかなどの調査を行い、日本の看護事情に即した看護英語教育の充実をはかりたいと考えた。

3.2 調査対象と方法

調査に同意が得られた愛知県内の5つの病院において、医療現場の看護師（保健師・助産師・准看護師も含む。以下、看護師とする）を対象にア

（表 1）

病 院 名	実施月	回収総数	回収率
刈谷総合病院（愛知県刈谷市） 看護師全員	2003年10月	406/450	約90%
愛知国際病院（愛知県日進市） 看護師全員	2003年10月	31/31	100%
名古屋第一赤十字病院（愛知県名古屋市中村区） 患者と接触の多い看護師	2003年11月	80（任意）	
国立名古屋病院（愛知県名古屋市中区） 産婦人科病棟看護師	2003年11月	27/30	90%
トヨタ記念病院（愛知県豊田市） 正規の看護師ほぼ全員	2003年11月	356/400	約89%

アンケート調査を行なった（表1）。調査期間は2003年10月～11月であり、自己記述式のアンケート用紙を手渡し、又は郵送し、約1ヵ月後に回収した。有効回答数は900であった。（ただし、各病院の事情により、サンプリング上の偏りがあると思われる）

3. 3 調査項目

調査項目は、1. 看護職についてからの経験年数 2. 専門分野における学歴 3. 医療現場での外国語の必要性 4. 必要だった言語の種類 5. 医療現場での英語の必要性 6. 医療現場での手話の必要性 7. 手話の学習経験 8. 外国語が必要だと感じた場面とその内容 9. カルテや専門分野の文献を読むときの英語の必要性 10. カルテや専門分野の文献について英語で読みたい内容 11. 自由記述 である。

項目8・10・11のみが記述式で、他の項目は選択式である。

3. 4 調査結果

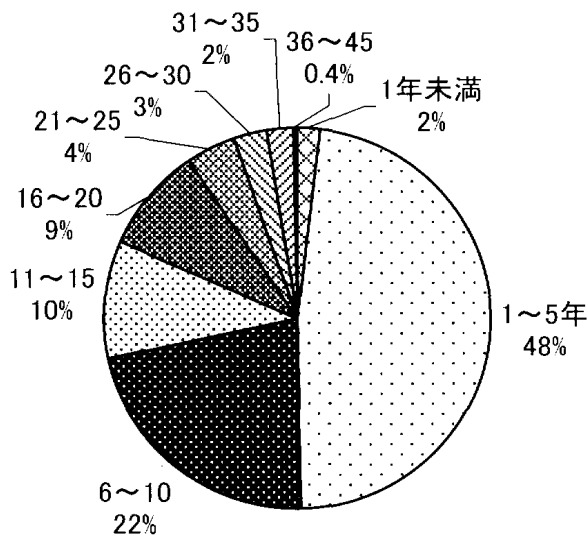
5病院のアンケート結果を単純集計、クロス集計などを行い、比較・分析をした。

設問 1 看護職についてからの経験年数は何年ですか。

(表 2)

	1. 経 験 年 数					合 計
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	
1年未満	15		4	2		21
1～5年	197	4	172	35	14	422
6～10	77	10	85	19	8	199
11～15	22	10	45	8	2	87
16～20	33	6	33	8	2	82
21～25	24		9	7		40
26～30	18	1	5			24
31～35	12		1	1	1	15
36～40	3					3
41～45	1					1

空欄は 0 を表わす。以下も同様。



(図 1)

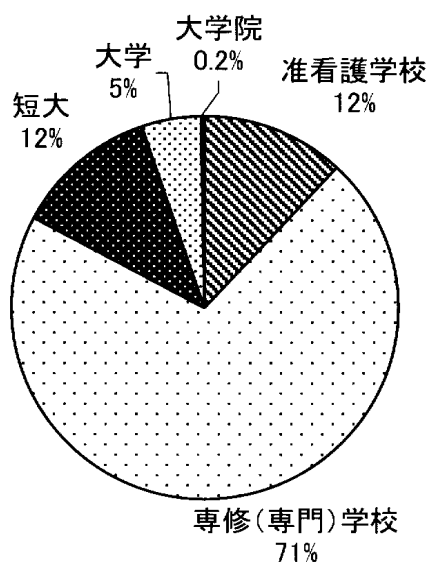
5 病院中 4 病院（愛知国際病院を除く）は急性期病院であり、看護職の経験年数を見ると 1～5 年と答えた看護師の数が突出している（表 2）。また、グラフで 5 病院全体の集計結果を見ると、0～5 年と答えた看護師が全体の 50% を占める（図 1）。全国規模の調査（園城寺：2003）と比べると、経験年数の少ない看護師が多い傾向がある。急性期病院では、仕事が

比較的忙しく、看護師の入れ替わりが多いと思われる。6 年以上の経験者は 5 年刻みに見ると、徐々に人数が減っている。

設問 2 専門分野における学歴について

(表 3)

2. 専門分野における学歴						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
准看護学校	73	5	31	2	1	112
専修(専門)学校	320	23	293	30	26	692
短大	32	5	35	43	2	117
大学	16	1	18	13	1	49
大学院			2			2
海外での学習経験						0



(図 2)

専門分野における学歴については、どの病院においても同じような分布が見られる(表 3)。4年生看護大学の立ち上げが続いており、経験年数の調査結果とあわせて考えると、今後4年生教育を受けた看護師が徐々に増加していくだろう。ただし、現状の調査(2003年)では、専門学校71%、短大12%で、3年間の看護教育を受けた看護師が大半を占めている(図 2)。今後もしばらくは病院の看護師の8割前後は、看護専門学校や短大の卒業者が占めるであろうと思われる。

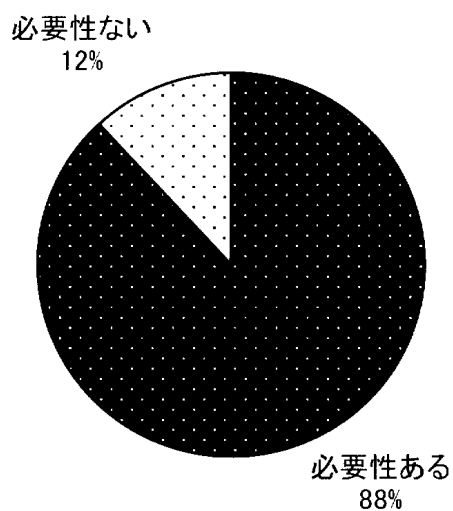
設問 3-1

今までに医療現場で外国語の必要性を感じた経験がありますか。

(表 4)

3-1. 今までの外国語の必要性

	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
必要性を感じた	335	29	332	66	27	789
必要性を感じなかった	71	2	24	14		111



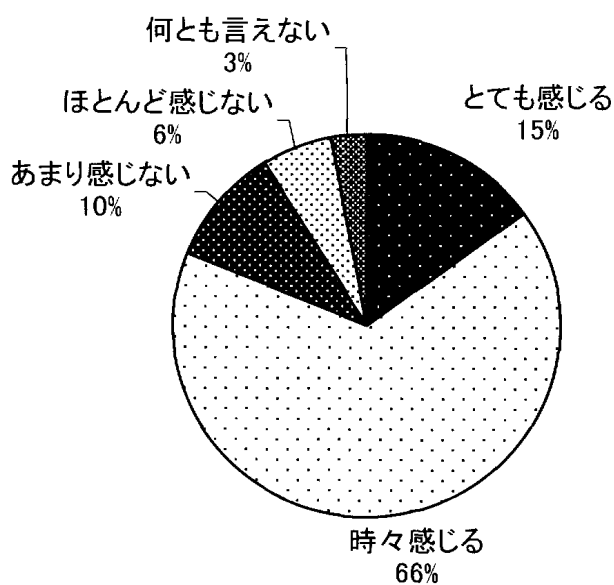
(図 3)

今までに医療現場で外国語の必要性を感じた経験があるかという問いに対しては、どの病院においても「必要性があった」と大半の看護師が答えている（表4）。グラフで5病院の合計の集計結果を見ると、88%の看護師が必要性を感じた経験をもっている（図3）。しかし、この問いに対しては、もう少し詳しく頻度について問う必要があると思われる。

設問 3-2 現在、医療現場で外国語の必要性を感じますか。

(表 5)

3-2. 現在の外国語の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
とても感じる	62	3	48	8	10	131
時々感じる	250	22	259	42	17	590
あまり感じない	49	1	28	12		90
ほとんど感じない	29	4	11	13		57
何とも言えない	15	1	9	5		30



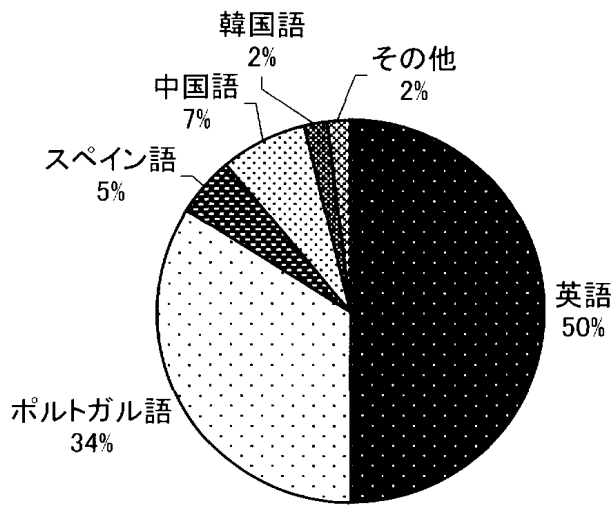
(図 4)

現在の医療現場における外国語の必要性については、規模の小さい病院でも大きい病院でも変わりなく、多くの看護師が必要だと答えている(表 5)。5 病院の合計をグラフで見ると、「とても感じる」と答えた看護師が 15% で、「時々感じる」が 66% となっている(図 4)。必要性の程度の差はあるが、全体で 81% の看護師が外国語の必要性を感じている。

設問4 何語が必要でしたか。

(表6)

	4. 必要な外国語					合計
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	
英語	289	27	298	61	26	701
ポルトガル語	238	6	212	17	10	483
スペイン語	19		33	13	4	69
中国語	24	2	39	20	15	100
韓国語	10	1	5	9	3	28
その他	2		8	11	10	31

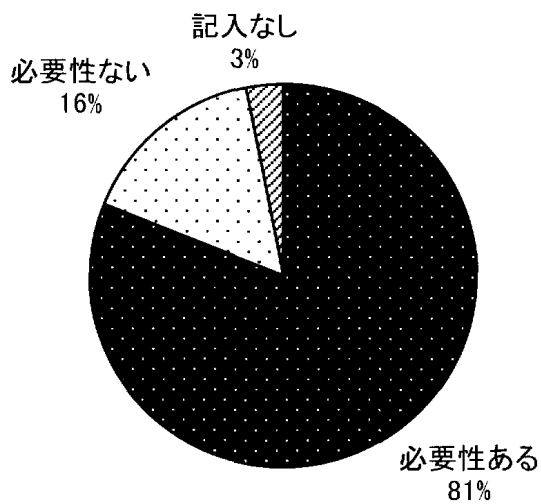


(図5)

必要な外国語については、全体で見ると多い順に、英語50%、ポルトガル語34%の順になっている(図5)。ポルトガル語が突出しているのは、調査した病院の地域性が関係している。有効回答数の85%は豊田市と刈谷市の病院であり(表6)、これらの地域はトヨタ系の会社が多く存在し、日系ブラジル人とその家族が多い。

設問 5-1 今までに医療現場で英語の必要性を感じた経験がありますか。
(表 7)

5-1. 今までの英語の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
必要性を感じた	311	28	299	64	27	729
必要性を感じなかった	79	1	47	14		141
記入なし	16	2	4	2		24



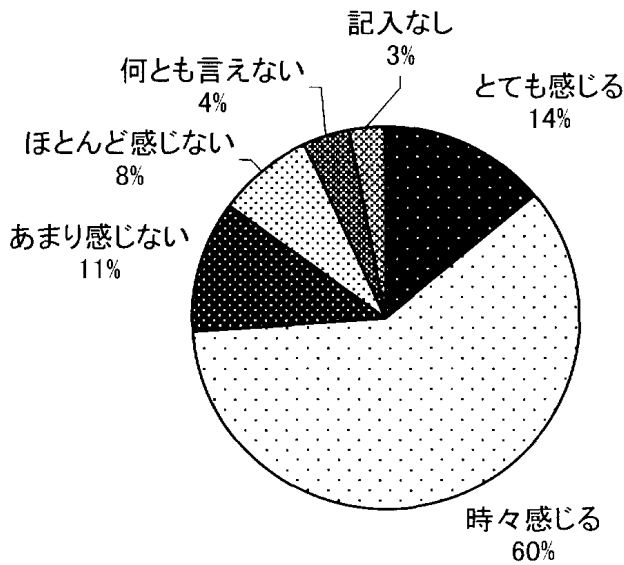
(図 6)

外国語の中でも英語に限って、今までに必要性を感じた経験について聞いたところ、5病院とも「必要性を感じた」と答えた看護師の数が圧倒的に多かった（表 7）。グラフで全体を見てみると、全体の 81% を占める（図 6）。

設問 5-2 現在、医療現場で英語の必要性を感じますか。

(表 8)

5-2. 現在の英語の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
とても感じる	52	3	51	9	13	128
時々感じる	230	23	235	42	14	544
あまり感じない	59	1	26	11		97
ほとんど感じない	34	2	21	12		69
何とも言えない	17		12	4		33
記入なし	14	2	11			27

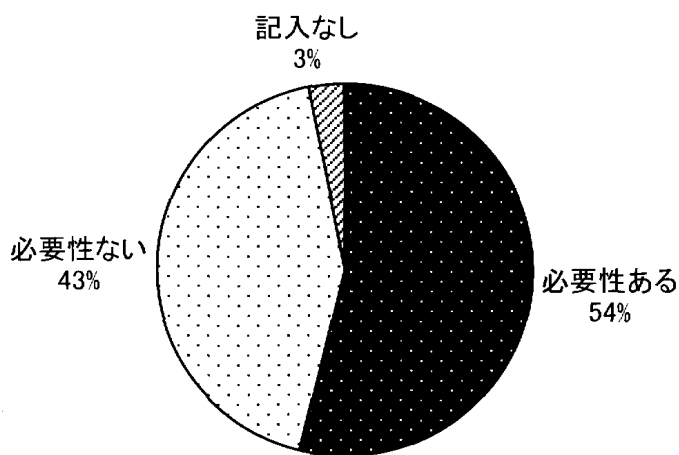


(図 7)

現在の医療現場における英語の必要性については、やはりどの病院も「必要性を感じている」と答えた看護師の数が非常に多い(表 8)。5 病院の合計で見ると、「とても感じる」と答えた看護師が 14%、「時々感じる」が 60%である(図 7)。合わせて、全体の 74%の看護師が、医療現場での英語の必要性を感じている。

設問 6-1 今までに医療現場で手話の必要性を感じた経験がありますか。
(表 9)

6-1. 今までの手話の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
必要性を感じた	201	16	231	31	9	488
必要性を感じなかった	191	13	118	47	18	387
記入なし	14	2	7	2		25



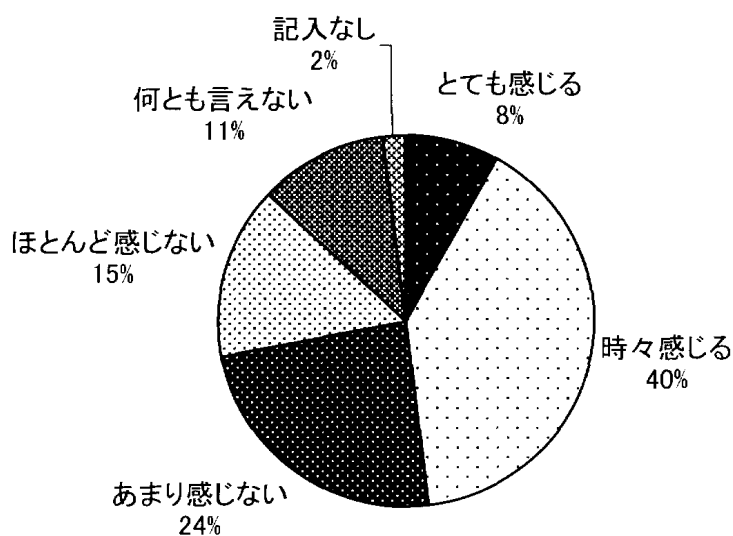
(図 8)

今までの手話の必要性を聞いた設問では、どの病院も「必要性を感じたことがある」という意見と、「必要性を感じなかった」という意見が大きく分かれた(表 9)。5 病院全体では、「必要性を感じた」と答えた看護師が 54% を占める(図 8)。

設問6-2 現在、医療現場で手話の必要性を感じますか。

(表10)

6-2. 現在の手話の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
とても感じる	31	2	30	5		68
時々感じる	150	8	166	22	10	356
あまり感じない	98	9	83	22	5	217
ほとんど感じない	68	6	37	18	7	136
何とも言えない	46	4	34	11	5	100
記入なし	13	2	6			21



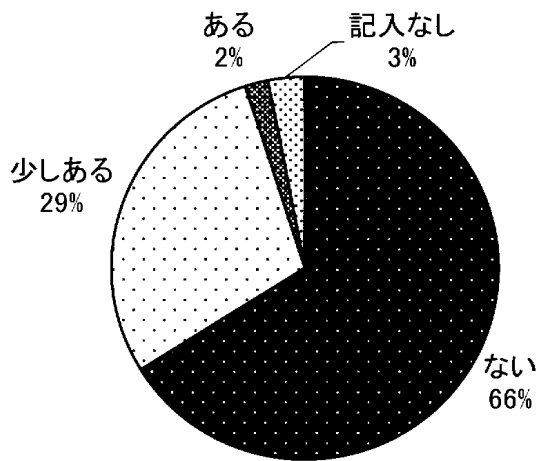
(図9)

現在における手話の必要性についても、病院別に見てみるとどの病院も、必要性を「とても感じる」看護師から「ほとんど感じない」看護師まで広く分布した(表10)。5病院の合計のグラフでは、「とても感じる」が8%、「時々感じる」が40%となっていて、合わせて48%の現場の看護師が手話の必要性を感じている(図9)。

設問 7 手話の学習経験はありますか。

(表 11)

7. 手話の学習経験						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
ない	264	21	238	56	21	600
少しある	119	8	105	21	6	259
ある	10		5	1		16
記入なし	13	2	8	2		25

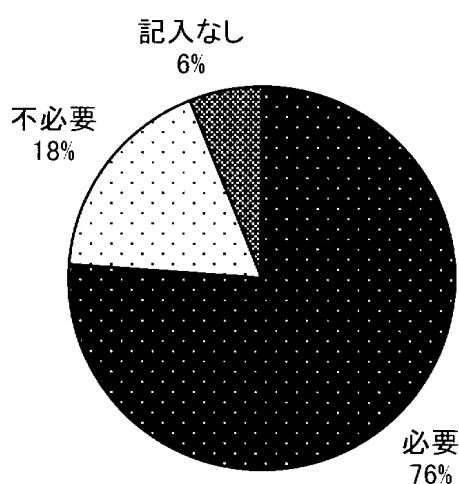


(図 10)

手話の学習経験については、5病院とも「ない」と答えた看護師が大半を占めた（表 11）。5病院の合計では、手話の学習経験が「少しある」と「ある」とを合わせて 31%である（図 10）。自由記述の中に、「必要性を感じても手話を学ぶ機会が今までなかった」あるいは、「現在も学ぶ機会がない」という意見があった。

設問9 カルテや専門分野の文献を読むときの英語の必要性
(表12)

9. カルテや専門分野の文献を読むときの英語の必要性						
	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
必要	297	28	268	67	24	684
不必要	75	3	69	11	2	160
記入なし	32		19	2	1	54



(図11)

現在はカルテが英語で書かれることが多く、どの病院においても、カルテや専門分野の文献を読むときの英語の必要性を感じる看護師は非常に多い(表12)。5病院全体で、76%を占める(図11)。

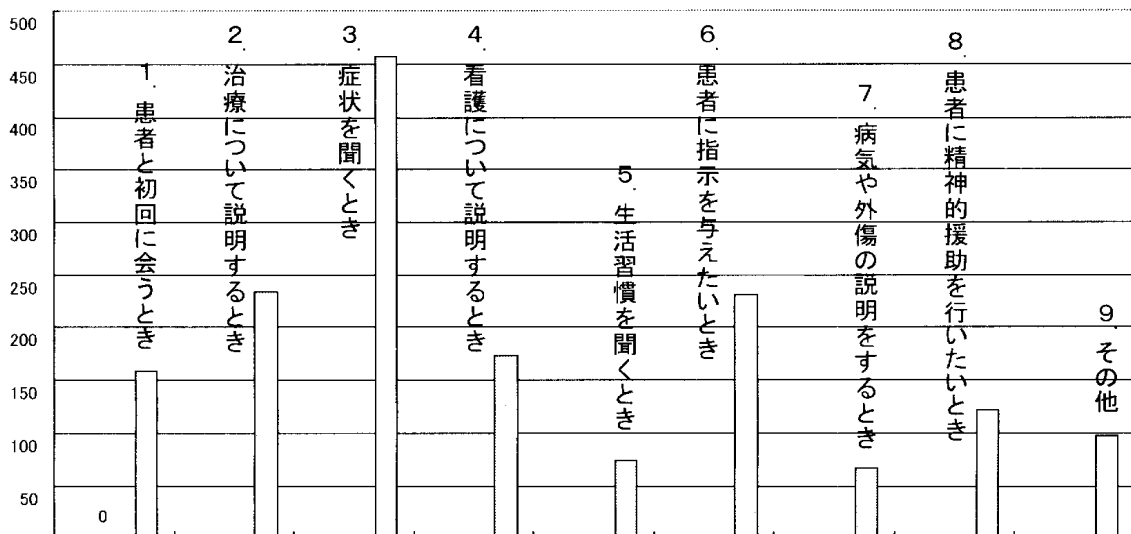
設問10 カルテのどこが読みたいか・どんな文献が読みたいか。

カルテや専門分野の文献について英語が必要だと答えた看護師にその内容をさらに詳しく聞いてみた。カルテについては医師記録を読みたいと思っている看護師が多く、次に検査結果を知りたいという意見が多かった。文献についてはさまざまな看護関係の文献・論文を読むときに必要性を感じるようである。

4. 英語が必要だと感じた場面における英語表現の頻度集計 (資料参照)

設問8において、英語が必要だと感じた場面における表現を自由記述式で記入を依頼した。場面を次の9種類設定した：(1) 患者と初回に会うとき (2) 治療について説明するとき (3) 症状を聞くとき (4) 看護について説明するとき (5) 生活習慣を聞くとき (6) 患者に指示を与えたいとき (7) 病気や外傷の説明をするとき (8) 患者に精神的援助を行いたいとき (9) その他。そして、それぞれどんな時にどんな内容のことが言いたいのか、あるいは言いたかったかを記入してもらった。

さらに、それぞれの場面において必要な英語表現の頻度集計を行なった(図12)。頻度の集計結果から、現場の看護師が使いたいと思う場面は、多い順に(数字は記入者数)「症状を聞くとき(457)」「治療について説明するとき(234)」「患者に指示を与えたいとき(231)」「看護について説明するとき(173)」「患者と初回に会うとき(159)」「患者に精神的援助を行いたいとき(121)」「生活習慣を聞くとき(74)」「病気や外傷の説明をするとき(67)」となっている。「その他(97)」の場面では、入院・退院のときの説明、手続き・書類・会計などの説明など、さまざまな英語表現が必要であるという現状が浮かび上がった。頻度の高い表現ほど看護現場での



(図12) 医療現場で必要な英語表現の頻度

必要性が高いと考えられる。(さらに詳しい内容については資料を参照)

看護英語教育については、川越(2003)によると、看護に特化した英語教育について、「医療・看護英語」が84.2%の看護大学で取り入れられている。また、北元(1996)によると、過密な時間割と限られた時間割の中で看護学生に必要な英語とは、専門科目に直結した英語、看護英語である。看護教育を受ける学生たちは、まだまだ過密な教育課程の中で、専門である看護学の学習により多くの時間を割いて学習している。しかし、それと同時に、グローバル化する日本社会において看護現場での英語はますます必要とされている。このような状況のもと、看護学生に短時間に効率よく効果的な英語教育を行なうために、この頻度の集計資料は役に立つと思われる。

また、現在、医療系・看護系大学生用のテキストの数は非常に少ない(川越:2000)。看護領域の英語教科書における語彙については、専門用語の選択に筆者によるバラツキが見られ、コミュニケーションな観点からの改良の必要性が指摘されている(Takakubo:2003)。看護の現場で本当に必要な語彙を組み入れ、さらに必要頻度の高い英語表現を組み入れたテキスト開発は非常に有意義だと考えられる。

5. アンケートの 設問 11 自由記述から読み取れること

表 13 が示すように、外国語が医療現場で必要な場合、日々の忙しい勤務の中で語学学習を続けることは容易ではなく、通訳の配置を望む声が存在する。また、外国人患者のために外国語の看護ガイドブックやパンフレットが必要だという意見がある。

手話についても、少数意見ではあるが、通訳配置・院内研修を望む意見がある(表 14)。

川代(2003)によると、在日外国人は、保健・医療のニーズがあっても語学をはじめ異文化コミュニケーションの点で適切な対応を受けられないことが多いと報告され、問題化している。

自由記述の分析から、現状改善のために考えられることは以下の3点が考えられる。

（表 13）

外国語に関する提案	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
通訳を配置すべき ¹	7	3	14	3	1	28
外国語の看護ガイドブックを作成・配付すべき	2		2	1	1	6
技能を有する者はネーム・プレートに「通訳者」と表示すべき	1					1
院内で外国語の研修を実施すべき ²	4		2	1		7
外国人が安心して受診できる病院を指定すべき	1					1
外国人患者とのコミュニケーションの場合を除き英語は極力控えるべき		1	1			2
電話を使った通訳サービスを導入すべき		1				1
外国人患者のための案内パンフレットを作成・配付すべき			1		2	3
院内の案内表示に外国語を加えるべき				1		1
看護学校で外国語教育を導入すべき				1	1	2
通訳の不足を補うために看護師が外国語を学ぶべき			2	1		3

注1 「通訳を配置すべき」と回答した28名のうち、12名が常駐を望んでいる。

注2 「院内で外国語の研修を実施すべき」と回答した7名のうち、3名が勤務時間内の実施を望んでいる。

- (1) 医療現場に何らかの形で通訳を配置する。病院による通訳配置のシステム化か、ボランティアを派遣する組織作り。
- (2) 効率的な院内研修の整備。
- (3) 外国語の看護ガイドブックやパンフレット作成。

6. まとめと今後の課題

本調査では、看護の現場で必要な言語と言語表現についての調査と分析

(表 14)

手話に関する提案	刈谷総合病院	愛知国際病院	トヨタ記念病院	第一赤十字病院	国立名古屋病院	合計
手話通訳を配置すべき ¹⁾	4	3	1	1		9
手話の看護ガイドブックを配付すべき	2		1			3
技能を有する者はネーム・プレートに「手話通訳者」と表示すべき	1					1
院内で手話の研修を実施すべき ²⁾	3		2			5
看護学校で手話の教育を導入すべき	1			1		1
手話通訳の不足を補うために看護師が手話を学ぶべき	1		2			3

注4 「手話通訳を配置すべき」と回答した9名のうち、5名が常駐を望んでいる。

注5 「院内で手話の研修を実施すべき」と回答した5名のうち、2名が勤務時間内の実施を望んでいる。

結果を報告した。アンケート調査の結果では、現在の看護の現場では実にさまざまな言語が必要とされ、また、英語についてもさまざまな場面でさまざまな英語表現が必要とされていることがわかった。このような現場で必要とされる英語表現の頻度集計については、今後の看護英語教育、また看護英語教科書の開発に役立てていきたいと考えている。

今後の課題としては、アンケート設問8の「必要な英語表現」について、9個の場面分けが適切であったかを検討する必要がある。さらに、この設問の完全な自由記述は分類や分析が非常に複雑な作業となるため、ある程度の選択式と記述式を混ぜた問い方ができるとよいと思われる。また、アンケートの最後にのせた自由記述の設問については、看護の現場での言語に関するさまざまなニーズの声を聞くことができた。今後、日本の看護事情に即した看護英語教育の充実のためにさらに調査を続ける必要があると思われる。

謝辞

本研究は下記の研究助成による成果の一部である。

平成 14 年度中京大学特定研究助成費 課題番号 221104

「国際化時代に対応する英語教育システムの研究とその IT 化の研究」

研究代表者 神田和幸

平成 14 年度～17 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) (1)

課題番号 14208017

「コーパスと統計的手法を用いた手話解析とその手話教育への応用の研究」

研究代表者 神田和幸

平成 14 年度～16 年度 文部科学省科学研究費補助金 萌芽研究

課題番号 14651098

「手話の言語機能としての評価法の研究」

研究代表者 神田和幸

引用文献

園城寺康子 2003 「看護における英語のニーズアナリシス」『看護教育』44/12
pp. 1080-1083

川越 栄子 2003 「英語教育の実態調査の結果から」『看護教育』44/12 pp.
1083-1084

川越 栄子 2000 「医学部, 看護学部における ESP 教育の一考察」*Journal of
Medical English Education* Vol. 2 No. 1 pp. 75-80

北元美沙子 1996 「看護系高等教育機関における外国語教育」*Quality Nursing*
Vol. 2 No. 8

Takakubo, F. 2003 "Analysis of Vocabulary in English Textbooks for Stu-
dent Nurses". *THE LANGUAGE TEACHER*: 27. 11 November. pp. 5-11

田代 順子 2003 「看護の高等教育化とグローバル化の中での英語教育への期
待」『看護教育』44/12 pp. 1087-1088

(資料)

アンケート **設問8** 英語が必要だと感じた場面における英語表現の頻度集計。[]内の数字は回答数で、以下にその内訳と詳細項目を挙げる。(教科書作成のときに具体的な表現を生かすため、似た表現であってもあえてひとまとめにするのを避けた。)

(1) 患者と初回に会う時 [159 (うち内容無記入が69)]

22 病院オリエンテーション・システム・病棟説明

18 自己紹介

16 挨拶

8 受診の科の案内をするための主訴を聞くとき (外来インフォメーション)

7 既往歴

7 疾患の有無・問診

5 名前の確認

3 自分がその患者の担当であること

2 アレルギー

1 予防接種歴

1 治療歴

(2) 治療について説明する時 [234 (うち内容無記入が69)]

69 検査・処置・治療の説明

検査 5 採血

4 レントゲン

3 「血糖の測定をします」

2 皮内テスト

2 「検査に行ってください」

1 胃カメラの説明・結果

1 内視鏡の検査

1 検査中痛みはないか

処置 15 点滴

- 5 注射
- 3 呼吸器・吸入の設定
- 2 「今から縫います」
- 1 抗生剤の側管注入
- 1 陣痛促進剤を使用し、分娩誘導する方法
- 1 透析の説明
- 1 痛み止めは座薬と注射のどちらがいいか
- 1 入院中の処置
- 治療
- 1 光線療法
- 1 NICU での治療説明
- 1 療養計画書の説明
- 1 治療・検査などの今後の予定
- 19 薬の効果や副作用の説明
- 1 抗生剤の内服について
- 16 手術 (術前の処置・術中の経過など)
- 6 麻酔の説明
- 1 リハビリ

(3) 症状を聞く時 [457 (うち内容無記入が 133)]

- 78 痛みの場所と具合
 - 4 頭痛はあるか
 - 1 のどの痛みの程度
 - 1 傷の痛み
- 74 いつからどんな症状か
- 40 現在の症状・以前と比べてどうか
- 18 アナムネーゼ聴取
- 16 腹痛・吐き気・便について
- 13 気分・調子は悪くないか
- 13 今日はどうしたか?
- 12 排泄の有無・回数
- 11 疼痛の有無

- 7 食欲はどうか
 - 5 陣痛の強さ・長さ・間隔など
 - 4 咳・鼻汁はでるか
 - 4 変わったことはないか
 - 3 どこを診療して欲しいか
 - 3 出血はないか
 - 3 おならは出たか
 - 3 自覚症状
 - 2 産後の検温や授乳状態
 - 2 現病歴
 - 1 白血病患者に自覚症状があるか聞くとき
 - 1 主訴を聞きたい時
 - 1 倦怠感
 - 1 今までの病歴
 - 1 入院するまでの症状
 - 1 血尿はないか
 - 1 しびれはあるか
- (4) 看護について説明する時 [173 (うち内容無記入が88)]
- 13 検温するとき
 - 11 症状に対する看護の説明
 - 10 自宅での看護方法・注意点 (日常生活の) (退院後の) (安静や処置)
 - 9 検査や看護についての説明
 - 5 分娩進行状態や分娩後の指導について
 - 4 今後の方向性・ケア・スケジュール
 - 3 清拭するとき
 - 3 看護・保険指導についての説明
 - 3 採卵後の安静時間
 - 3 患者の状態説明
 - 3 「安静が必要です」(食道精脈瘤破裂で安静)

- 2 「今から～しますね」という声かけ
- 2 産後の生活について
- 2 診察の介助につくとき
- 2 感染のリスクについて
- 2 異常時の受診について
- 2 受け持ちナースと日替わりナースについて
- 1 体を拭くかシャワーを浴びるか
- 1 沐浴について
- 1 介護のインフォームドコンセント
- 1 解熱剤・氷枕・湯たんぽの使用
- 1 妊娠中の保険指導
- 1 離床の必要性
- (5) 生活習慣を聞く時 [74 (うち内容無記入が 55)]
 - 15 生活習慣について
 - 2 食事摂取状況
 - 1 生活習慣と食生活 (患者に沿った入院生活のため)
 - 1 既往歴
- (6) 患者に指示を与えたい時 [231 (うち内容無記入が 94)]
 - 18 次回来てもらいたいときの説明
 - 18 「安静にしてください」(安静度の説明)
 - 14 検査の手順
 - 12 検査中の指示 (体位の移動など)
 - 11 食事・水分・塩分の摂り方
 - 10 薬の飲み方
 - 6 治療・処置などの案内
 - 6 今後何をどのようにするか
 - 4 授乳について
 - 4 「検査室へ行って、指示された場所で、待って」
 - 4 入室オリエンテーション, 病院生活について
 - 3 手術後の指示・チェック

- 2 外来の診療場所の説明
- 2 医者の指示を具体的に伝える時
- 2 協力して欲しい時
- 2 場所案内
- 2 「いきんで、深呼吸して、安静にしてください」(分娩時の呼吸法)
- 1 分娩介助のとき
- 1 分娩室入室のタイミング
- 1 受付で手続きの指示
- 1 伝票の提出場所の説明
- 1 「尿を一日分このビンにつめてください」
- 1 生活習慣の違いから止めて欲しい行動の説明
- 1 注意事項
- 1 「医者と直接話してください」
- 1 「次は～番でお呼びします。～でお待ちください」
- 1 運動量
- 2 「何かあれば、ナースコールをして」
- 1 呼吸タイミング
- 1 過換気の人に指示する時
- 1 「放射線科へ行ってください」
- 1 「我慢しないでください」
- 1 薬のもらい方
- (7) 病気や外傷の説明をする時 [67 (うち内容無記入が 51)]
 - 8 「～の症状が出たら注意してください」症状の対応策・注意事項
 - 5 病状説明・治癒過程
 - 1 患者の家族に意識レベルを説明するとき
 - 1 「問題ありません」
 - 1 「頭を縫ったのでお風呂に入らないでください」
- (8) 患者に精神的援助を行いたい時 [121 (うち内容無記入が 68)]
 - 14 励ましの声かけ
 - 7 「何かして欲しいことはありますか」

- 6 不安はないか
- 6 不安を和らげてあげるとき・安心感を与える・落ち着ける
- 5 検査前中後の励まし・声かけ
- 2 入院生活全体を通しての不安の軽減
- 1 どんな気持ちか
- 1 思ったままの感情を伝えたい
- 1 気持ちを汲んで傾聴したい時
- 1 どう接して欲しいか
- 1 「大丈夫です」
- 1 症状の緩和を期待させ力づける
- 1 帝王切開の声かけ
- 1 胃カメラの声かけ
- 1 ICU シンドロームの不安の除去
- 1 麻酔時の呼びかけ
- 1 外来患者の精神的援助
- 1 「何がつらいか」
- 1 患者の家族への精神的フォロー
- (9) その他 [97（うち内容無記入が8）]
- 13 入院生活の注意点・説明・入院案内の説明
- 8 手続き・書類の説明
- 7 退院指導
- 5 何を聞かれてもわからない
- 4 育児指導・どんな育児をしたいか
- 4 副作用
- 4 会計
- 4 普段の日常会話
- 3 連絡先や同意を聞くとき
- 3 「大丈夫ですか」
- 3 場所案内
- 3 予防接種

- 3 カルテをみる時
- 2 「通訳はいつ来るか」
- 2 クーリングの説明
- 1 「ゆっくりなら日本語がわかりますか」
- 1 面会時間が守れない人への説明
- 1 邪魔という時
- 1 家族はいつ来院するか
- 1 入院するまでの経過を聞く時
- 1 よく眠れたか
- 1 電話の対応
- 1 海外からの研修生にケアの説明の仕方を説明する
- 1 面会人との話
- 1 説明を本当に理解しているか
- 1 「X-P をとりに行きます」
- 1 DX をとること
- 1 検体の説明
- 1 病理の結果
- 1 死産後の埋葬や手続きについて
- 1 炎症を抑える薬があり、薬局に売っている
- 1 外泊届の書き方
- 1 肛門刺激
- 1 ENT のときの退院誘導
- 1 今から CT に行くが、気分は？
- 1 バイタルサイン

(受理日 平成 16 年 5 月 12 日)